



80歳以上の高齢者へのアレンドロン酸投与時の 股関節骨折と死亡リスクおよび安全性

J Intern Med.282(6):546-559,2017

骨折の既往を有する80歳以上の高齢者では、アレンドロン酸による治療によってその後の股関節骨折や死亡のリスクが低下する可能性があるという研究結果が「Journal of Internal Medicine」2017年12月号に掲載された。

80歳以上の高齢者では、併存疾患を持つ人が多く臨床試験の実施が難しいなどの理由から、アレンドロン酸などの経口ビスホスホネート製剤の有効性や安全性を裏づけるエビデンスは限られている。そこで今回、スカラボリ病院およびヨーテボリ大学（スウェーデン）のKristian F. Axelsson氏らは骨折の既往を有する高齢者を対象に、アレンドロン酸の投与により股関節骨折のリスクを安全に低減できるのか否かを評価した。

本研究では、2008～2014年にスウェーデンの医療施設で転倒リスク評価を受けた患者のデータベースから、部位を問わない骨折の既往を有する80歳以上の高齢者9万795人を特定。さらにプロペンシティスコアマッチングを用いて、アレンドロン酸投与患者1,961人と骨粗鬆症治療を受けていない対照患者7,844人を1対4の割合で組み合わせた。これにより両群間で年齢や性、身長・体重、併存疾患などの患者背景を揃えたうえで、股関節（大腿骨骨頭、頸部、転子部、転子下）の新規骨折のリスクをCox比例ハザードモデルで評価した。なお、アレンドロン酸投与群は転倒リスク評価の直近を含む3カ月以上にわたって同治療を受けており、その期間は平均3.5年間、服薬アドヒアランスの指標であるMPR（薬剤保持率；治療期間に対し処方された1日用量の総和が占める割合）は平均91%だった。

その結果、アレンドロン酸の投与により股関節骨折のリスクは低下し（ハザード比：0.62、95%信頼区間：0.49～0.79、 $P<0.001$ ）、この関連は多変量モデルでも認められることが分かった（ハザード比：0.66、95%信頼区間：0.51～0.86、 $P<0.01$ ）。さらに、アレンドロン酸投与群では死亡リスクも低下した（ハザード比：0.88、95%信頼区間：0.82～0.95、 $P<0.01$ ）。ただし、アレンドロン酸の投与により軽度の上部消化管症状の発現率は上昇していた（ハザード比：1.58、95%信頼区間：1.12～2.24、 $P=0.01$ ）。

著者らは「今回の結果から、80歳以上の高齢者に対するアレンドロン酸の投与は有効かつ安全であることが示された。骨折の既往を有する高齢者では股関節を骨折するリスクが特に高いため、そのリスクを低下させるために本剤の投与を考慮すべきであろう」と結論づけている。

- (1) メディカルカスタムコンテンツは、AJ Advisers LLCが制作、株式会社プロウエーブが編集（編集協力AJ Advisers LLC）した記事です。情報の正確性については万全を期しておりますが、各制作・編集社は、利用者が本記事の情報をを用いて行う一切の行為について何ら責任を負うものではありません。
- (2) 本記事の内容及びメディカルカスタムコンテンツのロゴの無断転載・配布を禁じます。
- (3) 掲載されている薬剤の使用にあたっては添付文書をご参照ください。